

# 人文会 ニュース

## 業務用

座談会 IV 大学生協 ..... 1

読書環境づくりをめざして 東北大学生協 藪田 佳則

東京大学生協(本郷) 織田 和一

早稲田大学生協(本校) 秋山孝比古

国学院大学生協 野々川 豊

慶応大学生協(三田) 姜 政孝

大学生協連 西垣内義則

司会 小林 一博

'81明日の文化をひらく ..... 15

理工学書・人文社会科学書40,000点フェア報告 日販 杉山 清

東海地区研修旅行 ..... 弘報委員会 ..... 19

人文会ゴルフ・コンペ記 相田 良雄

'82.3

34

大月書店

# わたしの 横浜郷静子

68回芥川賞受賞作家

巨大都市のひずみを見つめながら夢と希望をもって行動する浜っ子市民の素顔を描く。

46判／1000円

怒り、涙、歎び、人間愛……  
浜っ子市民のエネルギーを探る

東京都文京区本郷2-11-9／電話03(813)4651(代表)

# 江戸店犯科帳

（江戸）  
選書⑧

林 玲子著

江戸店に生きた奉公人たちの姿を反映した白木屋の犯科帳『明鑑録』を中心に、当時の商業組織、江戸店の構成と店掟、奉公人たちの生活などを描き出す。

四六判・二一〇頁  
定価一、二〇〇円

# 岡倉天心考

堀岡弥寿子著

米人ラファージとの出会い、日本美術院時代の天心、天心と親交のあった人々との往復書簡・文獻等により天心の人間像を明らかにしようと試みた力作。

四六判・二六〇頁  
定価二、六〇〇円

吉川弘文館

東京都文京区本郷7-2-8／電話03-813-9151

## 文化人類学叢書

### 象徴と社会

V・ターナー／梶原景昭訳 人間の社会的行為にと  
ってシンボルはいかなる意味をもつか。宗教運動、  
巡礼、カーニバル等の具体例の中にその意味を探る。

¥2800

### 千年王国と未開社会

（メラネシアのカーゴ・カルト運動）

P・フリスレイ／吉田正紀訳 近代欧米文化との接  
触が未開社会にもたらす宗教運動と社会変化との接

¥3200

### 文化とコミュニケーション

（構造人類学入門）

¥1800

E・リッチ／青木保、他訳 服装、料理、儀礼等の具  
体例を通して構造主義と記号論の思考法を説明する。

紀伊國屋書店

東京都新宿区新宿3/(354)0131

芝田進午著

## 現代民主主義と 社会主義

46判上製  
¥1700.

民主主義とはなにか、社会主義とは  
なにか——あらゆる専制主義・覇権  
主義に抗して、従来の通説を大胆に  
再検討し新しい理論を提唱する。核  
時代の文化論、学問論、宗教論につ  
いても問題提起し、中国・カンボジ  
ア・ベトナムの比較研究をつうじて  
現代社会主義を再検討した最新作！

森 宏一編

¥3500.

## 哲学辞典（増補版）

東京神田 青木書店 神保町1

## 読書環境づくりをめざして

出席者

東北大学生協書籍部長

東京大学生協本郷店長

大学生協連書籍担当

早稲田大学コープ・プラザ書籍店 店長

国学院大学生協店長

慶応大生協三田店長

司会

藪田 佳則

織田 和一

西垣内義則

秋山孝比古

野々川 豊

姜 政孝

小林 一博

司会 人文会では、昨年編集者、書店、取次と三回に分けて、人文書の販売をめぐるお話をいただきました。前三号では、その

三回の座談会についてのご批判や感想も特集しておりますが、各方面から大学生協の皆さんのご意見をぜひきくように、との要望がありました。そこで、きょうはお忙しいところをお集りいただいたわけです。大学生協の現状、学生の読書生活の実態についてお話をい

ただきたいと思いますが、まず、前回までの各座談会のご感想をおきかせ下さい。

### 人文書とは何？

A 版元さん、書店さん、取次さんのお話を伺って感じたのは、人文書とは何か、が最後までよくわからなかった。人文書概念が混沌としている。分類問題が論議されたり、横断的な棚構成、品揃え問題がありました

が。人文書とは、タテ割りの概念になっていきますよね、発言の中には、それを超えるような発言が多くて、人文書とは何なのか、がわからなかった。二つ目には、生協では、人文書と呼んでいる店と、人文・社会科学書といふ方しているところと二通りあるんです。図書館の十進分類法の総記からはじまって哲学、歴史、社会科学の辺まで入れているようです。それとの関係でいいますと、人文

書といわれるものの売れ行きが悪く、一点当りの部数が売れないのは事実なので、そういう意味では売り方が難しくなっている。その売り方の難しさが不振とつながって、印象的に論議されているのじゃないかな、そんな感じを受けました。

C 関連しましてね、「人文会ニュース」を見て感じるんですが、人文書分類というのは大雑把すぎまして、グロスで落ち込んでいるといいますが、中味をみますと、歴史書は入門書から学術書まで、大変幅が広い。学生が本を読まない、というが、学生だけでなく教官まで、校費での購入が増えている。その辺のところは深く究明されてなくて、狭い中で人文書が落ち込んでいるといっても、問題の視点としてはおかしいな、と思います。

一番関係するのは、校費の伸びが少ないことなんで、大学の予算をもっと増やせ、という運動をすれば、大学図書館にもっと本が入るわけなんで、そのことで、初刷り部数が増えて本はもっと安くなる。出版団体は、もっと大学予算(図書館予算)を増やせ、という運動をやる必要があるんだらう、と思う。

七七年から八一年までの供給高の推移をみ

てみたんですが、法経書を除いた人文書は、五年間で一二三・八%に伸びている。冊数で一〇七・三%、客単価で一五・三%の伸びになっている。冊数の落ち込みがあるといわれているのですが、一年当り一〇一・八%で落ちてはいない。供給高も、一年当りで一〇五・五%です。この五、六年留年率が非常にさがっていることからみると、一人当りの購入冊数は確実に増えている。この辺も正確にみていかないと、誤まることになる。

#### 高すぎる専門書

F 取次さんと、版元さんの座談会とはく目新しいことはなかったですね。書店さんの話は、日常的に同じような仕事をやっているせいか、興味深く読みました。分類的にはさきほどから意見がありましたので省略しますが、「志」というか、ぼくらも、今どこを強化したいか、という人文書分野です。

その辺は、書店の方も考えて努力していると感じました。これから、書店と生協が競合するだらう。

E 皆さんのお話につけ加えることは余りないんですが、うちなんかは、人文書がメイ

ンです。うちなんかはもっと中味の濃い本を、学生が欲している。ハウツー的な人文書はうちでは全然売れていない。学術的、専門的なものが売れている。しかし、その専門書の値段が余りにも高すぎる、と思いますね。

以前だと、三冊買っていた人が、今は一冊買って終わりだ、という感じがします。人文書・専門書の値段が高すぎるのじゃないか、そう感じています。座談会についてあえていえば、言いたいこと言っているな(笑)という感じです。

D ぼくなんかお店にいてね、読者の動向は一番気になるんですけど、その動向はなかなか掴みにくい。「人文会ニュース」を読んでも書店さんも、その辺の動向を今一つ掴み切れていない、もどかしさが出ていた。その点ではかなり共感をもつて読むことができたね。それと、「人文書」という掴え方で、何が掴えられるのか、という疑問も片一方にはあるんです。うちのお店なんかでも、法律、経済、人文書、社会科学系の専門書を分けているんですけど、人文分野は余りにも広すぎて一言で伸びているのか、落ち込んでいるのか評価を一概にできないんじゃない

か、そんな気もします。

うちの場合、売場を大きくした、という経過もあるんで、ここ四、五年人文書は伸びてはいるんですが、中味をみると、かつてよく売れた本がやはり売れなくなっている。その辺は共通しているんだらう。

学生が人文・社会科学書を読まなくなったという話をよくきくんですけど、では、かつて学生が、そんなに人文・社会科学書をよく読んだ時代があったのだから、との疑問もあります。一〇年くらい前でも、人文書を読まない学生が多かった。一〇年くらいの間では余り大きな変化はないんだらう、と、これが現場で本を売っている実感です。

昔の学生に比べると、現在はやることがいっぱいあって、ぼくらが学生の頃は思いもつかなかったパーティとか、いろんなレジャーが増えている。本を読むのも一つのレジャーだった時代があったとすれば、今はレジャーの中に本が入り込む余地は少なくなっちゃっている。その点での落ち込みはあるだろうけど、人文社会科学書を必要とする層の割合は、昔も今もそれほど変わっていないんだらう、という気がします。

じゃ、人文書が落ち込んだとするならば、そういった原因は、学生の意識の変化にじやなくて、もっと別なところにあるんじゃないか。科学的な裏付けはないんですが、感じとしてそういう気がします。

司会 皆さんおっしゃるように人文書の定義が難しい。人文二〇社の中にも人文書でなく、文学書を主としている出版社もあるわけですから、定義する人によって随分違うところがありますね。その漠然としたジャンルをとらえて売れるとか、売れないとかいってものはじまらないのですが。今、学生の平均購入費はいくらですか。

A 平均は五一七〇円です。昨年の第一七回学調の資料ですが。

司会 その五一七〇円は、皆さんから考えて多いのか、少ないのか。どうですか。

A 全国の平均値でお話しますと、五一七〇円は学生も少ないと思うようです。というのは、何に一番お金を支出したいですか、ときくと「本代」というのが四九・八%でトップなんです。

司会 七年間の費目別支出の伸び方では、書籍費が最低でしたね。

## 本とレコードは同位置

A そうですね。全国の下宿生の生活費は平均で八万六六五〇円です。本代が五一七〇円ですが、総支出に対する本代の支出の割合は下っています（注九・一%から七・四%）。

さきほど話に出ましたが、昔は、大学生だから本を読むのが主要でしたが、今は、「読書」は、学生生活の一部分でしかない。レコードを聴くのと同じ位置に本という世界もあるんだ、と。読書生活に対する価値観が変わっている。とくに七〇年代になってから急速に変った、と数字上からもいえます。

それから、学生の本の購入冊数ですが、これは意外なんです、第一次のオイル・ショックが七三年にありましたね。その頃は四・三冊（平均）だったのですが、今は、五・四冊です。七三年から七五年までの平均冊数と七九年から八一年までの三年とを比較してみますと、一・一冊増えている。

司会 単価はどうですか。

A 文庫本も入っていますが、単価はあがっています。

司会 昔は、文庫本は蔵書数に数えなかつ

たのではないのですか。蔵書というとハードカバーの本で、文庫本は、「その他に文庫本を何十冊、何百冊持っている」というようないい方をしていたのではないですか。

**A** 生協の調査はそうじゃない(笑)。文庫本といえども本です。活字です。ですから活字そのものには接している、そして、確実に本を買っている。ただ、それなのに、活字離れとか、本が売れない、とか言われるのはどこから来ているのか、その辺を探っていないと、論議が煮詰っていかない。

**司会** 出版業界の中には、学生が本を読まない、との批判がありますね。そのことに関連して、さっきCさんから指摘がありましたが出版業界はどうすればいいのか、もう少し説明して下さい。

**C** 今、Aさんもいわれましたが、最近の文庫と新書のベストセラーをみたのですが、岩波文庫や岩波新書も結構売れているんですよね。昔、単行本で出て、今文庫本に入っているのがありますが、文庫本でも読む時間は同じなんです。単行本読むのと。前は、今ほど文庫本の種類が出ていませんでした、人文関係でいえば岩波文庫が主でしたが、今は

学術文庫なども出ていますので、その辺の文庫本も読んでいます。という評価をしておかないと、いけない。読んでいないわけじゃない。

#### 本当に読書離れか

**A** 今のは、人文書というより、活字一般についてですね。本当に読書離れなのか、という、統計上はそうっていない。

**C** ただ、七八年、八一年の学調を比較してみますと、ほとんど読書時間をもっていないといえる層と三〇分前後の層が、一、二年で五九・一％に増えていて、全体に対して五九・一％を占めている。三、四年生で二一・五・四％と二倍で、構成比は五三・三％。三〇分未満の層が五割を越している。この数字の重みは確かにある。

しかし、文系、理系で比較すると文系の読書時間は多い。九〇分以上読書時間を持っていると答えた学生が二三％いる。この層に対して出版社はどういう働きかけをするか。この層は本来なら「本を読む喜び」を知っているはずなので、この層に働きかけることによって新しい読者層をつくり出していけると思

います。

**司会** 第一七回学調に出ている数字みますと、一年生の平均が四〇分、二、三年が四七分、四年で五九分と出ていますが、ぼくの正直な感想をいうと少なすぎます。学生生活が多様化していることは認めますが、興味を注ぐことがいっぱいある。一日二四時間の中で時間の制約もありますが、それにしても少なすぎると思うのですがどうでしょう。

**F** 活字離れの評価が、金額からみて云々されているが、冊数と時間の関係で評価すべきだと思っています。読書時間は数年減り通してきたが、昨年辺り歯止めがかかったのかな？と感じました。

それと、読書時間の意味なんです。七九年の調査では、マンガ、雑誌の時間がどれくらいあるかアンケートをとったんですが、うちの場合読書時間は六二分でした。そのうち三〇分がマンガと雑誌につぶされていた。実質的な読書は一日三〇分しかない。これをみたら、明らかに少なすぎる。読書時間六二分も東大と二分しか変わらない。

**B** 一年生は入学したばかりで生活エンジョイ派ですが、三、四年になりますと、勉強

中心になっています。勉強しない層と、勉強する層がはっきりしていて、中間層が減っていますね。

かつて大学生は同世代の一五%くらいで、エリートであった。エリートだから当然勉強はする。ところが、進学率が四〇%を超えますと、大衆化するわけですから勉強しない層が出てくる、ときいたんですけど、そういうことが関係していると思う。

もう一つは、人文書という概念の問題ね、先ほど話が出ましたが、「人文会ニュース」を読んで感じましたが、最後に残るのは人文書と文芸書ですね。あとは、どちらかというと、実用書ですから、たとえば英単語憶えるのにも機械をつかう。そんなことを考えると、本の位置が問われている。しかし、知的な関心がないか、というところじゃない。本に代るものがどんどん出ている。

うちでも、新刊コーナーや、常備の棚でも人文書は売れています。専門書とはいえない軽い内容の人文書も含めてですけど。大きな意味での人文書は売れている、といえます。

## 情報としての読書・本

司会 Cさんどうですか。

C うちも読書時間などは平均と似ているんですけど、ぼくは、読書というのは、一義的に捕えられないだろうと思います。

ある人が本を読む動機ですね。必要に迫られて読む場合があったり、時間が余っているから読むこともあるだろう。その時間が余ったから本を読む、レジャとして読書するという層は少なくなっている、という気がします。

その代り、必要にかられた読書は逆に増えているのじゃないか。だから、書籍の読み方も、ある情報を得るためになっている。「びあ」が一位になると、学生は嘆かわしい、という批判をきくんですけど、「びあ」と同じように、専門書にも向いている層もあるんですよね。

昨年、人文・法経書の売行きをみると、桁外れによく売れている「ゼロ・サム社会」とか、ギルダールの「富と貧困」とか、それらが、二〇〇から五〇〇冊売れている。これらを経済専攻の学生たちが買っているか、と

いうとそうではない。就職のための教養として他の学部の子も結構読んでいます。また、これを読むとレポート書けるというような本は確実に売れている。

ぼくらは、本に自分の生き方を求めた時代があった(笑)わけですが、今の学生は、自分の生き方を本に求めない。何に求めているかというと、音楽とか演劇とかですよ。ぼくなんか、音楽は時間潰し(笑)という気がすることさえあるのに、今の学生は、音楽をきくことが自分の生き方を確かめることになっている。

人文書というと、一般教養書というような捕え方ですけど、一般教養を本に求めないで、演劇をやること、自分らでバンドをやることに、自分の生き方を模索する、そういう層が出て来ている。人文書が最後まで残る、ということに対しても、そうあって欲しいなァ、という気持と、ほんとうに残るのかなァ(笑)という気持があります。本の売れる数だけでは評価を下げない、怖れみたいなものもありますね。

司会 Eさん、購入単価と読書時間の関係はどうですか。

**E** 勉強好きで大学に入ってくるタイプと昔だったら高卒で働いただろうと思われる人が入っていますね。うちの場合でも、学部によつては、勉強しないタイプの学生が多いですね。しかし、すぐく勉強する連中が集まる学部があります。本も買うわけです。これらをトータル的に平均してしまうと、読書時間は少なくなりますが、勉強している層の勉強時間はすごくあると思いますよ。その差が、売っていてわかるんですね。

マンガ買う層と、専門書買う層とでは、タイプが違うというか、人種が違う(笑)という気がしますね。たとえばね、海外旅行をやりますね。海外ツアーに行く人みると、書籍売場で一度も見たことない人です(笑)。

大学に来ていて目的、時間の使い方が全然違うんじゃないですか。読まない層を活字離れ、というのなら確かにそうでしょうね。読む人は相当読んでいて、本も買っていると思いますね。

**司会** さっきの話にあった、本を読む層の一〇数%に的を絞って平均を出すと、読書時間も、冊数も随分違った数字になるでしょうね。

**B** 大学が大衆化されていますからね。法学部の学生は最初から司法試験を受けるために入学するわけです。今、司法試験を受けるためのノウハウが開発されていますから、別に難しくはない、問題集を解いていけば通る。工学部や医学部は、三年になっても、四年になっても次の試験勉強がある。だから、進路によって本への接し方が異なる。

わたし自身は、人文書を強化したい、と考えていますが、人文書は一年間で三回転回上させるのはなかなか難しい。

#### 気にしないコピー

**司会** 本を読むということ、買うことは必ずしもイコールではないですね。買わないでも読む人はいますね。本は買わないが図書館で読む人、コピーをとっている人がいますね。このコピーは、出版業界にとって大きな問題であると同時に、著作権の問題としても大きな問題です。このコピー問題についてどう考えていますか。

**B** 学調で、教科書、参考書の未購入の理由を書いてももらったら、未購入で「コピーをした」からというのは八・六%です。

**A** なぜ、買わないか、という層のうちの八・六%ですよ。

**B** 「図書館を利用する」というのが一・五%。「読まないから」というのが一・一%です。未購入者は全体の約三四%。全部買わないのではなく、一〇冊のうち一冊買わないの含めてですよ。そのうちのパーセントですから、全体からみるとコピーする層は少ないですね。全体の二・三%くらいです。

**A** 教科書をコピーする例は余りない。あるのは語学のテキスト。二冊買って級が五〇人だったら各二五部コピーして配る例がある。生協でコピーが多いのは、大体講義ノートです。

**司会** コピーの問題も、絶版や品切れ、あるいは予約販売のため買えないからコピーするのと、生協に行けば売っているのにコピーするのでは意味が違いますね。ですから、一概にコピーが悪いとはいえませんね。

**A** それは言えます。生協でみている限りでは、ノートとか、図書館から借りてきた本がほとんどです。それと洋書。ゼミで使うのに、日本に一冊しか入っていない、とか。外国から取り寄せるのには三カ月かかる、と



か、そんな場合ですね。ですから生協の現場ではコピーは余り気にしていません。

F 試験時期は、相当な影響があるだろうとみています。うちの場合、教科書の未購入理由の中で、コピーでするのが二割ありますから。でも、うちで使っている教科書みればコピーして、買う必要ないのが多いですよ（笑）。先生が著者である教科書が数年来増えています。強制的な押しつけがありますから。それに対する反発もあるようです。

コピーはノートから

E うちがノートのコピーですね。これはすごい、試験期は複写機をフル回転ですから。

教科書はコピーしないが、講義ノートをコピーすれば試験も受かってしまう。教科書持つことないわけです。

F うちは一〇円コピーやっていますから本の一ページ当り単価との関連もあります。

司会

Dさんの大学はどうですか。

D 図書館で教科書を借りてコピーする例は少ない、ないくらいですね。教科書が余り売れないで、コピーに壊れ列なので見に行き

ますが、ほとんどがノートのコピーですね。

学生にきいても、教科書買わなくても、ノートのコピーの方が簡単に読めるし、受かりやすい、と。そういう学生が、もし、コピーという手段がなかったら、教科書買うのか、という、やはり教科書買わないで試験を受ける層でしょうね。

コピーによって生協の売上げが大きな影響を受ける、ということはおうちの場合はないんじゃないかな？

A 早稲田だったのかな、三年くらい前、図書館の本がコピーで痛んで何百万円分か買いかえる、ということがありましたけど。

専門書の場合は、中の一章だけ、二章だけ読めばいい、ということがありますから。そうなるとコピーになってしましますね。

司会 論文を書かない教官がいるといわれていますが、実態はどうですか。そのことが学生の読書生活に影響している、ということがありますか。

A 生協は、その問題について評価する資料もないし、立場でもない。しかし、ぼくが感じているのは、大学院生が全国に五万人くらいいて、オーバードクターが五千人くらい

いますね。彼らは研究者だけど、奨学金も切られてしまうし、就職先もない、自分の書いたものを発表する場もない。そういう若い研究者の能力を表に出す（登場させる）出版業界の仕組みが弱いんじゃないか。売れないし、紀要などは限界がある。そういう若い研究者が発表する場がなく、訓練する場がなくて、教官になってしまいうことがあ。若い研究者を受け止める仕組みを出版界が考えなければいけないんじゃないか、という感じは持っています。

あるいは、大学生協辺りが将来はそのことまでやらなければならないのか、その辺はよくわかりませんが、問題としてはあります。

司会 東大出版会の石井さんが、「出版社が学生離れしているのではないか」と指摘していましたね。ぼく自身も、出版社が学生の実態をどこまで捕えているのか、突き放したままではないか、との疑問を持っています。この辺についてどう見えていますか。

B この数年間みていますと「知的などうか」とか、「読書の何とか」という本が出ていますが、その背景には知的な遊び、もう一つは情報を整理する面がある。今、一日に一

〇〇点近くの新聞が出ますが、読者はそれに悩んでいる。大学生協もガイダンス機能をもつようにしたらと思っています。

それは書店のレベルでは分類機能ということになるでしょうが。整理学などに目をつけていけばおもしろいと思うのですがね。

### 欲しい出版の柱

**司会** 各大学の出版部は、学生の実態に対応するような出版をやっているのでしょうか。

**F** うちでも出版部ありますが、話すのは営業の人ですね。営業の人はやる気があるんですね。出版社もそのようですが、営業と編集の関係がうまくいっていないようです。営業の人と話をして期待していても、実際出てくる本は相も変わらずです。

**A** 東大出版会の目録みますと、教科書、専門書、教養書の三本柱ですね。学生向け、研究者向け。今の人文会の版元さんが、東大出版会のような明確な柱を立てているか、というところ、そうなり切れていないのじゃないかと感じますね。

今回の座談会シリーズの中でも、入門書、

専門書、教養書という考え方をされていて、教養書のレベルまで持っていて論議をしているのですけど、じゃ、版元さんが、そういう範疇で本づくりなり、読者という問題を捕えて出版活動しているのか、というところ一つ定まらないものがある。

売れそうなテーマがあると、著者をつかんでパァと出版するような面がある。類似企画もある。ロングセラーがなくなれば、新刊で自転車操業的に出して資金やりをする。出版の柱の弱さと、本づくりの甘さ、というのか、それを感じますね。

**C** 出版社の出版を企画する前提を最初に述べたんですが、本が売れない原因のところ、コピーの問題も出ました。今、一冊の本を読んで論文はまず書けないですね。沢山の本を読まないといけない。学生の場合でも、短期間に一つのレポートをまとめようとする、コピーが必要だし、図書館を利用しなくちゃいけない。これをいくら批判してもどうしようもないんで、この現実をみたらうえで何をするのか、を考えないとじり貧だと思ふ。

わたくしがそこで考えるのは、厚い本が著者に対する評価にならないだろう。厚い本を

出版社が馴れ合いで認めてしまっている。実際に本を必要としているのは一冊の本の中の一部です。著者独自の見解とか、学説の部分とか、そこだけを読者は読みたいわけで、厚い、高い本がほしいわけではない。

出版社は、著者のエッセンスを本にして出した方がより多く売れるだろうし、学問・研究に対して貢献することができると思う。東大の選書なんか安いですよね。

もう一つ、文芸書の版元は、千円を切った大量に作っている。人文書の版元でも、「甘えの構造」などでは八八〇円です。この考え方を見習うべきだろう。うちの場合、人文書の八一年度の客単価は一九六五円、四年間で一一・五・三%あがっている。さらにいえば、三〇〇円、四〇〇円の文庫本の人文書との比較をしていかねばならないだろう。

**B** 価格でいいですね、うちには院生委員会があります、モニター制度のようなものですが、定価で二五〇〇円超えたと買い控える、といっています。

読者カードにしましても、出版社に価格などについて疑問を出しても返事がない。資料が古いと指摘しても、返事がない。人文会な

ども利用者、読者の立場に立って考えてほしいと思いますね。

司会 Eさんの生協で価格の問題はどうですか。

やはり本は高い

E うちの場合、高い本がありますが、どうしても必要だと買っていきます。万円の本でも買いますね。アルバイトで稼いで。

D うちには経済書が一番強いが、ゼミに入っていて新しい学説の本を買わないと、ゼミの中で馬鹿にされるということがありますから、洋書を含めて、新しい本が出ると躊躇せずには買いますね。人文書は院生が中心になりますね。歴史書なんか、表紙見ただけで買っていく人がありますけど、でも本代の嘆きは先生も含めてききますね。

高いから買い控えるのは余りみられないのですが。

A 価格の問題に入っていますが、今ペー  
ジ単価一〇円前後、コピーは大学生協はB4判で一〇円です。紙製品に対する価値観が急激に変わっていますから、本でなくてもいい。もう一つは、学生の知識能力。書籍の平均

定価が二千何百円になりますね。客単価も、法律学、人文書が二千円くらい、文芸書が千二、三百くらい。雑誌が五〇〇円、文庫、新書で三〇〇円〜三五〇円ですね。今いったように必要なものは買わなければいけない、となりますと本の中で第二次的に買う本に対する予算がなくなってしまうですね。

平均月五一七〇円ですから、専門書二冊買ったなら終わりです。雑誌だって二、三冊は皆買いますからね。業界の方は、本は他の物価より安い(笑)といいますが、学生の生活からみたら本は高い。この学生の気持ちを払拭するものを作っていくかないと、読書は回復しないですね。

司会 大学生協というのは、流通業者であり、一方で読者の組織、代表だと思っているわけですが、本の価格の在り方は難しい問題だと思えます。

A そうですね。

司会 本は伝統的に安く、安く値付けされてきた。わたくし自身、自分が買う時は安い方がいいが、自分の本を出版してもらった時は印税の関係から高くて部数が多く出た方がいい(笑)。そんなに本を安くしなくてもいい

いだろう、という感じになる。高くても買ってもらえるように読者にアピールすべきだ、と思っています。

たとえば、二〇〇〇円の本三〇〇〇部出版しても印税は六〇万円ですよ。二〇〇〇円の本を書くまでには、六〇万円では資料費にもならない。これでは、専門的な本は経済行為としてはなりたたない。これでいいのかという問題があります。

A さきほどの類似企画の問題になります。一点当りの部数が減っていると、それだけ原価にはね返って定価高となつてきますよね、本は昔から多品種少量生産物といわれているんですけど。これが単価の問題、品揃えの問題など含めて、いろいろな困難を現出させてきている。これをかえることを考えていかないと、さらにきびしくなりますね。

編集者との交流望む

返品率が三五%を越しているのに、本ほど自由勝手に出されているものはない。出版の自由の問題がありますから難しいのですが、本ほど計画生産しにくいものはないですね。

版元は生産するだけ。取次やわれわれは売  
るだけ。品揃えの冊数は限定されているのに  
生産側の供給過剰がつづく。われわれの方か  
らこんな本が欲しいと、それが版元さんの企  
画にはね返って、単価も下げられて、しかも  
短期集中的に売れるようなことも一方で探っ  
ていかないと、今の状態ではパンクしてしま  
う。

**司会** 話題変えますが、生協と出版社の交  
流は相当にありますか。

**C** 余りないですね。

**B** 直接訪問される出版社が多いですね。  
**司会** 編集者も訪問しますか。

**B** まずないですね。編集者は一年に一、  
二度。

**A** ないですね。

**司会** さっきいったように、大学生協は読  
者の代表と想っているわけですが、大学生協  
に行けば、読者の生の声がきけるんじゃない  
かと思っています。どうして編集者が声をき  
きに行かないのかと思います。営業に間接  
的に伝えるのではなく、編集者と直接交流を  
持てば伝わるも伝わらないもなくなってしま  
うのに。

**A** 「人文会ニュース」三〇号みますと、  
編集者も棚に並んでいるのは見ているようで  
すが。生協にもそんな角度からアプローチし  
てくる編集者の方は少ないですね。

**B** 生協も編集者の方に来ていただきたい  
ですね。新刊出した時も、並べ方などアドバ  
イスしてくれたいと思いますね。

**D** うちには、編集の方がいらしたことは  
ないですね。営業の方も売り込みがほとんど  
です。ベストテンのリストみせて下さいとい  
う人がいますが、これは一般の書店と傾向は  
同じです。人文書などは特定少数向けの出版  
ですから、その辺の動向を調べるには、ぼく  
らと喋るよりも、レジの傍に立って三〇分く  
らいみていただければ、こちらで説明する以  
上の情報を得られると思います。また、うち  
なんか、店に並んでいない本の注文が毎日一  
〇〇点くらいあるわけですから、どんな本の  
注文があるか見ていただければ、傾向がつか  
めると思う。

そういうのを調べて、企画に生かしてもら  
えたらと思いますね。そうすれば「売ってく  
れ」「どうしようかなァ」の段階から一歩踏  
み込んだ交流も出来ますね。

#### 伸びる大学出版部

**A** 八〇年代に伸びるのは、大学出版協会  
だと思います。彼らは、明確に生協をみてい  
ますし、学生の生の声をつかんでいます。生  
協の機構からすいあげています。このことを  
他の版元グループがやるかどうか、大きいと  
思いますね。

**F** ここ一年ほど、営業の方の訪問は非常  
に増えていきますね。しかし、売り込みの話は  
大体五掛できいておけといっていますよ。

**C** 本のつくり方で、版元さんに対する要  
望なんです。自己満足型の著者はダメです  
ね。著者の中には、学界に対する発表論文と  
混同している人がいる。啓蒙的な本の観点か  
らみますと、また学者として自分の学説・研  
究を追いこす者を育てる使命があるわけです  
から、自分の学説をわかりやすく知らせるた  
めの書き方をしてもらわなくちゃいけない。  
論文じゃなくて、やわらかく楽しく、勉強に  
入っていけるような書き方をする必要があります  
だろう。そういう著者を出版社はつくってい  
かねばならないだろうと思う。

タイトルも「〇〇入門」とか、「〇〇の研

究」なんかはやめた方がいい。今の学生のイメージに合わない(笑)。勉強しようとしている人は入門、概説でもいいんだが、そうでない人は見向きもしない。

もう一つ、新刊案内ですが、本を読みたくなるような感じの、魅力のある新刊案内をつくってはいい。たとえば、大月書店の国民文庫の現代の教養版をつくるといい。それから、どうしても普及したい本については、それぞれ別の出版社で文庫本にして出したらどうだろう。

本多勝一の「アメリカ合衆国」を読んでいるところですが、膨大な資料ですね。その本一冊読むことによって、関連づけて他の本を読みたくなるような書き方している。

それに関連して思うのですが、どの本も、参考文献を、自社出版物だけでなく書いてもらうと、一冊の本を読むことによってもう一冊の本を読むようになる。人文会の出版社同志でやる。NRの会が共同目録をやっているが、あれを拡げてやってほしい。

司会 大学生協は注文書の迅速化に取組んでいましたが、成果はどうですか。

C 三年間やってみて、ほとんど改善され

ていません。生協で扱う出版社の数がどんどん増えてきているということもあって、入荷日数が短縮されません。出版社、取次、生協(書店)、読者の間に共通のルールをつくると、トラブルは大幅になつてくると思いますが、それを業界全体でぜひ議論していただきたい。

皆、自分の立場でやっていて共通の基準がない。

司会 予定の時間が残り少なくなりました。が、再販の今後についてどう考えますか。

先般来の全集フェアについても、書店の中に反発があります。どうしてあのような値引きができるのか、と。大学生協は、再販の除外団体ですからフリーですが、版元は責められている。

#### 再販とISBN

A 今の時期、再販問題に対して、生協がどうこういえる位置にいないですね。ただ、業界をみていると東販さんの自由価格版が一つの形として出来たので、方向性はみえたかな、という感じはしますが、生協としてどうこうと考えてはいない。

司会 生協として大々的に五割引バーゲンとかないですか。

A いや、生協は事業体ですから(笑)。

そういう風にはできませんね。ぼくは、返品問題との絡みで、責任販売制を真面目にやらなくちゃいけないと思う。その絡みで値下げして売れる商品があればやる。業界全体の課題の解決の中で割引の問題が出てくるのが自然じゃないか、と思います。

司会 ISBNについてはどう考えていますか。

F 慎重な対応が必要ですが、管理の面ではいいなという面がありますね。今後、管理が重要視されてくる中では、コード化されているのはやりやすい、といえます。生協もいろいろな面で電算化を考えざるを得ないわけですから。手作業だけでいいのか、ということがありますね。ISBNとは連動しませんが四月からファクシミリ入れて入荷率が早まっています。

C ただ、日本の場合、出版の国家統制、言論統制の歴史をもっていますから、ヨーロッパのようなわけにはいかない。日本は民主主義が徹底していないから、討論に時間をか

けるべきだと思います。

**司会** 流通在庫が三〇万点近くある状態になっていて、一方でお客の方は、本が早くほしい、正確な情報がほしいというのだから。その処理は人間の能力の限界を越えている。何らかの機械化は必要だろうとは思いますが、日本には出版統制の暗い長い歴史がありますから、性急なコンピュータ化は避けなければならぬと思う。ファジズムの土壤もありますから、歯止め策は必要。

わたくしが、大学生協に希望したいのは、大学生協がコンピュータ化する場合どんな問題があるのか、現場を踏えて討論して、その意見を反映させてほしい。

**C** 書店もそうだが、生協もつんばい敷だね。市民権がない。

**司会** 市民権は主張しなければとれない。

**C** 返品マニュアルにしても書協と取協の合意でしょう。われわれの意見は全く無視されて、勝手なことをいっている。

**司会** 個々の意見はきいてもらえないが、大学生協として意見をいえばきいてもらえるということがある。大学生協として発言すると圧力団体と(笑)受けとられるところもある

りますが、大学生協が現場の声として、それも出版の未来を考える声として出してくれること希っています。

**A** これからの課題ですね。

**C** 問題提起を二、三おこないたい。

**司会** はい、どうぞおねがいます。

流れを変える運動を

**C** 読書時間の減少に対して、逆の流れをおこななければならないと思うんですけど

「国民文庫」の「見える学力、見えない学力」は一ページ一五行です。朝日文庫は一八行です。同じ文庫でも活字の大きさが違う。あと、保育園、幼稚園の読みきかせ時間の拡大を含めて、読書についての議論をする。出版業界だけではダメですが、教育機関を巻き込んでやる必要がある。児童書の分野でも人文書を出す。全国の中・高校で「私のすすめる本」という文集をクラス毎につくらせる。その文集に対して出版業界は、文集一冊につき二冊の献本をおこない、クラス毎の学級文庫づくりをしたらどうか。

全国の大学教官に対しては、著者と、出版社と生協で共催して、本を出すたびに出版記

念会、記念講演会を大学内でやる。これはやろうと思えばできる。また、学生に対して教官は、自分の読書体験、生活体験を話す時間を設定するように呼びかける。今、教官は学説を喋っているだけです。自分は、こんな本を読んだということを話すと、それが刺激になって学生が本を読むようになる。そういうことをすると、大学の教育、大学の教官は、これまでと異った評価を学生たちから受けるようになるだろう。

もう一つは、現在、教官が指定する本は一冊なんです。一方学生はコピーがいくらでもできる。昔と同じ感じで一冊の本をレポート用、参考書に指定している。これでは、学生の不勉強に教官が手をかしていることになる。前の二倍、三倍の参考書を指定しても当然じゃないか、と思います。コピーをしてもいいから、参考書を増やすべきだと思います。

**A** 今、Cさんがいわれましたが、大学生協の当面する大きなテーマとしては、読書環境をもう一度きちんと作り直そう、ということがあります。われわれがやらないとならぬ。とにかく高校卒の四割以上が大学に入り

社会人になっていくわけですから。やはり、われわれが問題提起をして、版元さんとか、取次さんとか、評論家の方も含めて読書生活をサジェストしていくような体系をつくりあげていきたいと思っています。

人文会さんとも、今後もこういう機会がほしい。学生に本を読んでもらうためには何が必要なのか、もっと突き込んだ、方法論を含めた場をつくっていった、出来ることからやっていくことをしたい。

F 読書環境づくりは、どこの単協でも、今活動の柱にしています。ぼくなんか、実際的には自分の店を守り、発展させることに力を入れています。読書環境づくりを考えるとした商品を置いて売っただけじゃつまらないだろう。じゃ、なにができるか。学生が参加できるのは何か、カルチャーセンター、講演会など考えていきたい。単なる物から離れたところで生協は運動をしていかなければならないだろうなと考えますね。

#### 読者に依拠した出版を

D 読者に依拠しないと出版活動は本来できないはずなのに、実際には読者をどう掴ん

でいるのかが問われている時代だろうと思います。

再販問題のように、ややもすると、生協は再販除外団体で、値引のメリットの上にあぐらをかいて、なお且つ限定された地域の中で品揃えの努力も余りしないで売っている——との批判もよくきくんです。しかし、そんな

ことではやっていけないんだ、とぼくらも問題意識をもっているわけです。生協が最終的にどこを目指すのかというと、利用者の立場に立った書籍部はどこまで出来るのか、ということですね。そういう意味で、読者を大事にした店づくりを目指していきたい。一般書店が値引き商品を扱うような事態が将来来るようになった時でも、生協は値引きのメリットだけで学生を掴まえているのじゃない、生協へいけば必要な本が簡単に手に入る、また必要な情報が手に入る。親切に検索してくれる。だから生協を利用するんだ、というような声をききたい。夢ですけどね。

C 東販さんから日キ販の扱っている本がとれない。地元で扱っている書店があるからです。こんな変なことはやめるべきですね。また小口注文の取扱いをどうするかを考え

てほしい。出版界は自社の利害からしか出版していないのではないか。本当に読者を育てようとしていないのではないかと思えますね。あらためてほしい点です。

司会 大変ながい時間ありがとうございます。

(二月五日、神田一ツ橋・学生会館にて)

次回「人文会ニュース」No.35号は、今迄の一連の座談会で提出された疑問、提案、批判等々に応えるべく意図を持つしめくりとして、出版元のオーナーにお集り願ひ、企画者小林一博氏のまとめをこめた総仕上げになります。勿論、これですきるわけではありませんが、一応の整理と提案等に応える義務もあるわけですので、あえて形式にこだわるわけです。それから先のことも機会あるごとに場を設けて検討をつづけてゆくのは当然ですが弘報委員の交代もありますので機を見てすかさず継承されるでありますし、御期待下さい。

表1 大学関係者数と大学生協組員数ならびに組織率

1980年現在

|     | 大学数 | 生協数 | 学 生       |         |     | 院 生    |        |     |
|-----|-----|-----|-----------|---------|-----|--------|--------|-----|
|     |     |     | 学生数       | 学生組員数   | 組織率 | 大学院生数  | 院生組員数  | 組織率 |
| 国 立 | 93  | 63  | 373,916   | 279,791 | 75% | 33,728 | 18,185 | 56% |
| 公 立 | 34  | 17  | 49,665    | 26,216  | 53  | 2,286  | 1,039  | 44  |
| 私 立 | 319 | 53  | 1,367,701 | 342,684 | 25  | 18,878 | 4,262  | 23  |
| 合 計 | 446 | 133 | 1,781,282 | 648,691 | 36  | 53,992 | 23,476 | 46  |

|     | 教 職 員   |         |     | 総 計       |         |     |
|-----|---------|---------|-----|-----------|---------|-----|
|     | 教職員数    | 組 合 員   | 組織率 | 合計人数      | 組 合 員   | 組織率 |
| 国 立 | 109,512 | 52,715  | 48% | 516,156   | 350,691 | 68% |
| 公 立 | 15,188  | 3,405   | 22  | 67,267    | 30,661  | 46  |
| 私 立 | 121,951 | 61,152  | 50  | 1,498,530 | 408,088 | 27  |
| 合計  | 246,651 | 117,273 | 48  | 2,081,955 | 789,440 | 38  |

(注) 短期大学校 517, 学生数 371,125 人は除く。

表2 売上高と店舗規模

|                 |             |
|-----------------|-------------|
| 大学生協店舗数         | 197店        |
| 供 給 高           | 227億円       |
| 書籍              | 202億円 (89%) |
| 雑誌              | 25億円 (11%)  |
| 店舗面積 (売場) の分布状況 |             |
| 10坪未満           | 34店         |
| 10坪～20坪         | 65          |
| 20坪～30坪         | 37          |
| 30坪～50坪         | 37          |
| 50坪～100坪        | 10          |
| 100坪以上          | 2           |
| 計               | 185         |

表4 学生の平均読書時間

(第17回学調より)

|        | 1 年 生 | 2,3 年 生 | 4 年 生 |
|--------|-------|---------|-------|
| ほとんどなし | 25.8% | 18.1%   | 11.3% |
| 30分くらい | 38.9  | 38.0    | 35.8  |
| 60分くらい | 21.4  | 27.0    | 26.8  |
| 90分くらい | 6.8   | 8.3     | 11.3  |
| 120分以上 | 6.8   | 8.2     | 14.6  |
| 平均読書時間 | 40分   | 47分     | 59分   |

表5 慶応三田生協のジャンル別供給高  
(見込みと構成比)

(81.3～82.2)

|       | 供給見込み   | 構 成 比 |
|-------|---------|-------|
|       | 千円      | %     |
| 人 文   | 60,567  | 16.4  |
| 法 律   | 50,927  | 13.8  |
| 経 済   | 86,272  | 23.4  |
| 文 芸   | 40,941  | 11.1  |
| 文 庫 本 | 13,297  | 3.6   |
| 新 書 判 | 5,019   | 1.4   |
| 雑 誌   | 29,550  | 8.0   |
| 語 学   | 43,246  | 11.7  |
| 校費購入  | 19,056  | 5.2   |
| 売 掛 け | 20,147  | 5.5   |
| 合 計   | 369,022 | 100.  |

表3 過去7年間の費目別支出の伸び率

(第17回学調より)

| 自 宅 生         | 自 宅 外 生       |
|---------------|---------------|
| 交通費 88.1%増    | 日常費 105.8%増   |
| 日常費 85.9% "   | 住居費 91.3% "   |
| 教養娯楽費 65.2% " | 交通費 83.8% "   |
| 食費 47.3% "    | 教養娯楽費 70.1% " |
| 文具代 38.5% "   | 文具代 46.1% "   |
| 書籍費 24.8%     | 食費 43.2% "    |
|               | 書籍費 28.3% "   |



# 横浜会場 “明日の文化をひらく理工学書・人文社会科学書四〇、〇〇〇点フェア” の報告

日本出版販売株式会社

書籍調整課 専門書係長

杉山 清

10月16日・17日・18日の3日間、日販では首都圏ではじめて専門書のブックフェアを横浜桜木町駅前のゴールデンセンター12・3Fで開催した。

3日間の来場者数11284名は、今まで日販が各地で開催してきた展示会の新記録であった。

東京の隣接地として、各種研究機関、企業、工場の本社の多くが東京に所在する条件の中、これだけ多数の来場者があったことと、売上げ1億1140万を達成できたことは、地域読者へのサービスと新たな読者開拓に貢献できたものと思う。

横浜会場開催までの経過

ご承知の通り、日販では79年に名古屋地区に於てわが国ではじめての「理工学書ブックフェア」を開催し大変な好評をいただいた。引き続き、昨年も同時期に同じ豊田ホールで開催し、来場者数、前年比139%強の8168名、売上げ、前年比200%に近い成果を上げ、成功裡に終了した。

同時期に同じ地域で開催し、ブックフェアの定着を計るべく、本年第3回目を迎えた名古屋地区の理工学書ブックフェアも開催までは、来場者の動員、売上げ面における不安等はあったが、結果的には潜在読者の開拓、読者ニーズに合ったブックフェアの内容等、昨年を上廻る実績であった。

また、本年のブックフェア開催にあつ

て、名古屋以外の地域でもブックフェアを開催し、今まで2回の経験を活かして地域読者に貢献できないものかと開催場所、展示会の内容など検討してきた。倅なことに人文会の販売委員会の方で横浜地区で、ブックフェアを企画している旨お聞きし、それまで日販で検討していた理工学書展示会と合わせ、更に大きなブックフェアとして理工学書・人文社会科学書40000点を一堂に集めたブックフェアを企画した。関係団体、協賛出版社、書店各位の賛同を得、横浜ではじめて開催するブックフェアを必ず成功させるべくスタートした。

読者の動員と事前活動

首都圏で開催すること、理工学書と人文社会科学書を同時に展示すること等で、読者の動員については関係者の意見を聞き十分な検討を重ねた。開催期日が10月のため夏休み中の活動を考慮して促進期間を三段階に分けて事前活動を展開した。

第一段階は学校が夏休みに入る前に教育書を重点とした促進活動を実施。教育図書出版会のご協力を得、特選目録による受注活動と「保育・幼児教育図書」の目録を作成し促進したことは大変効果的であった。

第二段階の夏休み期間中は企業、研究機関等を重点に、理工学書関係の「辞・事典・便覧・ハンドブック」の最新版を掲載した目録を作成し、旧版との買換えを促進するとともにブックフェアをPR。後半は人文会で企画された七つのテーマによる「いま、知識を育むために」の目録による受注活動とブックフェア開催中も同テーマによる特設コーナー設置のPRを展開した。

第三段階はいよいよDM先を中心に学校・図書館・企業訪問を開始。過去二度の名古屋を上廻る規模で読者の動員を計った。また高校図書出版会と同行巡回販売を実施したこと

は売上げのみならず、読者の動員に大きな成果となった。

#### 宣伝活動・パブリシティ

出品目録は、理工学書編、人文社会科学書編の2冊で理工学書編は大項目を19分類とし、更に106の小分類。人文社会科学書は大項目12分類、小項目82分類とし、各目録共分類毎に、出版社をアイウエオ順に掲載した。更に、事前活動用には前記の保育・幼児教育図書編、理工学書関係便覧・ハンドブック編、新刊コーナー編と、人文会作成の「いま、知識を育むために」を作成。

DM、2300通。電車で吊り5路線、延14日間。駅貼りポスター6路線、54駅。新聞広告、朝日新聞、神奈川新聞、日本経済新聞。ポスター、5000枚が書店、訪問先に掲示された。また、大学出版部協会のご協力で各大学にポスターが掲示された結果、大宮市の大学から来場された読者に大変感激した。

また、展示会初日にNHKテレビの取材があり、翌日テレビ放映された結果、アンケートの集計の通り、「来場の動機について」

8.6%の読者がテレビを見て来場された。他新聞関係の取材も多くマスコミによる動員は大きかった。

#### 展示会の状況

今回のブックフェアを桜木町駅前のゴールデンセンターに決定した要因の第一に交通の便利さがあげられる。会場が2階層になっていろいろ懸念される点もあったが、やはり駅に近いという利点は読者の動員に大きく影響した。

会場は2Fに人文社会科学書、3Fに経済・経営・ビジネス書・理工学書を展示した。2・3Fともに2分冊に作成した出品目録の順に展示し、2Fと3Fの経済・経営・ビジネス書までが人文科学書編、3Fを理工学書編。2・3Fの商品構成については理工学書の読者、人文社会科学書の読者を検討し、3Fへ来場される読者を必ず2Fへ動員し、人文社会科学書の拡販を計った。

特設コーナーとしては前記の人文会の企画による「いま、知識を育むために」「マイコン・オフコンコーナー」「学会・協会コーナー」「新刊コーナー」「各社目録コーナー」

を設置。またオープン前日の10月15日にノール文学賞の発表があり、急遽「エリ阿斯・カネッティ」のコーナーを設けた。これらのコーナーには普段なかなか手に取って見ることのできない商品も多く、選択の幅が広くとてもよかった。等の声を聞きコーナーづくりの意義を再認識した。

更に特別催事コーナーとしてNIPS（日販出版情報検索システム）が実演され、多数の来場者が集まり、質問、来場者自身の実演等大変な賑わいであった。

一方、今回のブックフェアを通じて反省すべき点として

一、分類方法は十進分類法を基本としながらも、読者の多様化に対応できる分類が必要であり、商品構成も量的な平均化が必要。

二、各社目録コーナーの充実。読者の要望は強く、会場における売上げに直接結びつかなくとも、会期後の効果及び読者開拓には是非充実したい。

三、アンケートの集計で展示図書が少なかった、理工学書（17%）、人文社会科学書（16.2%）、ご希望の本がなかった、理工

学書（30.4%）、人文社会科学書（33.1%）

というデーターを再認識し、今後どう対応が必要か大きな課題である。

おわりに、まとまりのない報告となりましたが、はじめての横浜会場で11、284名の来場者、1億1140万円の売上げは偏に書店様をはじめ関係団体、協賛出版社、関係方々のご協力の賜と感謝いたし、次の開催までの感慨を持ち続けたい。

#### 読者の声

常設願いたい。

定期的にもう少し期間を長く。

洋書、雑誌を多く。

目録順に本が配置してあるので探しやすかった。最新版も展示してあるので有難い。何より多品種なのがよい。

理工学書フェア、人文社会科学書フェアの如くにさらに分割した、より内容を豊富にしたものを開催していただきたい。

各出版社のカatalogがおいてあって自由にもらえるのがよかった。

目録を先に送っていただければ必要な図書を見つけることができたと思う。理工学書

はかなり最新版が多く、今後も機会があればきたいと思う。

二次資料・図書館・資料室担当向けのものが見られるかと期待してききましたがちょっとはずれたようです。カatalogが入手できたのは収穫でした。

開催時期は大学予算決定が5月ですので6月か、予算消化メ切りが2月ですので1月が最も適当です。

センサー、ロボットのコーナーを設けてほしい。

同じ様な分野の本が展示されていて、手にとって見ることができたので選択の幅が広いことがとてもよかった。

セラミック工学系の本を紹介してほしい。



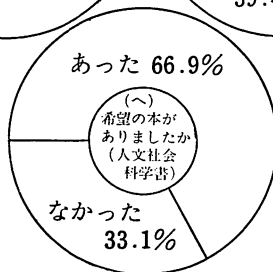
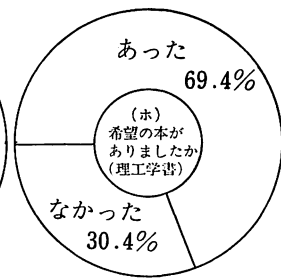
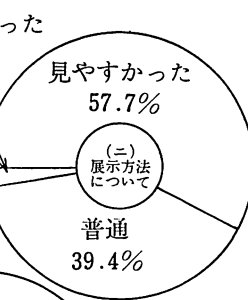
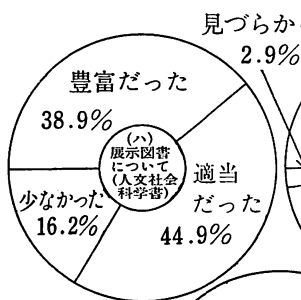
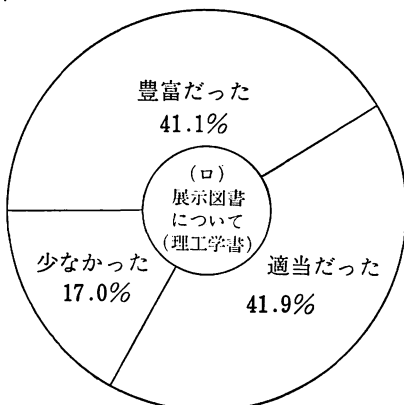
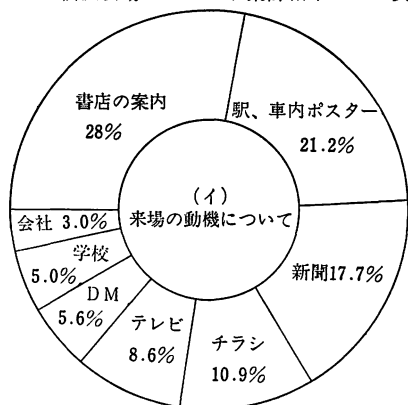
展示会の概況

資料 I

| 会 場       | 期 間  | 入場者数    | 総売上額      |
|-----------|------|---------|-----------|
| '79 名古屋会場 | 3 日間 | 5,868名  | 2,952 万円  |
| '80 名古屋会場 | 3 日間 | 8,168名  | 5,891 万円  |
| '81 横浜会場  | 3 日間 | 11,284名 | 11,140 万円 |
| '81 名古屋会場 | 3 日間 | 7,951名  | 6,256 万円  |

横浜会場アンケート集計結果

資料 II



## 人文会東海道研修記

人文会では去る二月一八、一九日の両日、

春の書店研修旅行を行いました。東京から取次の鈴木書店・畑中部長に同行して頂いた他に、静岡市では、東販の吉田支店長、日販の宮崎所長に御参加をして頂きました。訪問致しました書店さんは左記の通りです（訪問順）。

静岡市―江崎書店、静岡谷島屋、吉見書店、静岡大学生協。

浜西市―谷島屋名店ビル店、谷島屋。

豊橋市―新曙書房、豊橋西武ブックセクター店、精文館書店。

江崎書店

滝浪部長、若林部長、田中さん、佐藤さん、東販吉田支店長が御出席。首都圏にも支店を出されている当店の出店政策についてうかがったところ、十五年前に市内に七十店書店が

あり、供給過剰の状態があったので首都圏への進出を果したところ成功したとのことでした。また、当地は効外書店発祥の地であり、三年ほど前に効外店を出したが、市内に比べて回転率は三分の二、専門書は売れないのが現状だということでした。

人文書の新刊の仕入れについては、話題を呼んだものは必ず確保するようにしているが、装幀、タイトルなど地味なものは売れない傾向にあるけれども、入門書・書評で紹介されるものは売れているようで、伸びている分野は宗教・文化・民俗の順になるそうです。

悩みは常備比率が高いことだそうです。最近常備を入れないある版元のミニ・フェアをやったところ七割売れた例もあり、増売の工夫の余地はあると判断しておられます。

外商活動は、学校市場を中心に行なっており、総売上げに占める比率は十四%だそうです。人文書の外商における販売では、自主巡回のセットを組んでもらえれば扱うことは可能であるとの御返事でした。

静岡谷島屋

三上社長、小林専務、鈴木室長、黒田課長、永田売場長、漆畑さん、日販宮崎所長御出席。

静岡は他の地域に比較して、人文書の販売密度は高く、当店でもあえて一階に相当のスペースをさいて販売にあたっているとのことでした。

社員教育の特徴としては、アメリカのチェーン店方式を取り入れ、スタッフを作り指導する方針にして半年が過ぎ、順調に推移しているそうです。

人文書に限らず、これから店売の中心を占めるのは、新刊対策にあるとみており、販売機会損失防止を第一に考えているとのこと。

そのため、新聞広告、取次週報等を綿密にチェックすることを心がけ、なおかつ新刊展示後棚へ移行する際のつなぎ方の難しさにも留意し、必ず棚へも一冊は残す配慮をしているそうです。

版元に対する要望としては、新聞広告を出す以前に発売日が決まり次第、必ず新刊案内などで書店へ情報を流すことを徹底してほしい。その新刊を拡売した後の売れ残った本については、販売努力をしたかどうかを版元が

理解してほしいということです。

常備返品の際、書店などで常備カードをぬきとり、回転率を分析し常備の品揃え、棚の補充や充実に生かしたいが、方策はないものかという御提案がありました。この場で、人文会側からの即答はなかったのですが、その日の総括会議の席上、晶文社では常備カードに切り取り線を設け、書名と補充印が資料として残るように工夫しているという報告がありました。またかなりの会員社が、売上分析を半年に一度くらいずつ行っており、売上分析を活用すれば問題の解決になると思います。

外商活動との関係でいえば、一年分の新刊リストを大学、図書館むけに整理すれば、販売促進に役立つとの報告がありました。このことは図書館や大学研究室は、出版情報（リスト、目録等）が不足しているのが現状であり、それを解消することが増売への一ステップであるとの御意見でした。

#### 吉見書店

中村部長、水元部長、東販安部係長御出席。  
人文書の品揃えでは、市内の他書店の店頭

商品と異った商品構成にすることを心がけ、自店の客層にあわせた常備セットを選択するようにしているそうです。

特に伸びている分野は、障害児教育、福祉、心理などで、このことは保母さん看護婦さんを中心とした読者層が多いこととも関係が深いとみているそうです。

人文会から指摘をうけたジャンル別の棚構成がうまく出来ていない点も、理屈は分っているのだが、人手がともなわずに苦しんでいるのが実状だそうです。

外商活動は、学校中心にやっており、社員八名の他、ヘルパー十五名を使って新企画を中心に取り上げているそうです。特に県立図書館への納本では、谷島屋さん、江崎さんと一年間を三交代で当番にあたっており、人文書の新刊はかなりの確率で入るので、必ず一冊はオートマティックに配本して欲しいとの御要望がありました。

#### 静岡大学生協

板東店長、東販吉田支店長、日販宮崎所長、鈴木書店畑中部長御出席。  
今年の四月から、スペースが倍増になり、

在庫も一・五倍になるので、期待して欲しいとのことで、それに伴い常備も増やすことができるということでした。

品揃えでは、前期と後期で差をつける等の工夫もし、新刊コーナーを設けたり、またこれまでの教養部中心型の品揃えを脱皮し、専門書を充実させるなど、かなりグレード・アップさせることが可能になったということです。

五十六年度の業績はほぼ目標通りだったが、人文社会科学関係は対前年比横這いだったそうです。次年度はスペースが拡がることもあり、十五〜二十％アップを目標としているそうです。

#### 浜松谷島屋

黒田常務、斎藤室長、袴田店長、鈴木次長御出席。

総売り上げの三十五％を占める外商活動を中心に御報告を頂きました。外商活動の基本は、雑誌を日に延べ三万人に配達するというような定期刊行物の配達がベースとなっていて、その上に企画物を取り上げる構造だそうです。ところが、雑誌を一日百軒に配達する

となると、それだけで目一杯となり、セールの活動の余地など全くなかったのが、これまでの実態だそうです。そこで伝票発行、顧客管理に、パソコンを活用し、業務の合理化、コストの低減をはかりたいが、プログラミングは大変なことなので、業界でも協力体制を取ってほしいとのこと。

最近大学の新設の際、図書納入では十五%引きでも落ちないというような例が発生したが、これでは書店はともやっけないし、こうした極端な例を出すまでもなく、通常活動の収支をみても、販売促進費はもっと必要だと考えているそうです。

人文会に要望したいことは、商品開発に際しては、読者対象を明確にしたものを心がけること、また企業イメージの浸透をはかることを強調されました。

#### 豊橋西武ブックセンター

高須専務、杉山店長御出席。

以前の売場を半分以上に縮小したこと、営業時間帯の制約からサラリーマン客が少ななことなどの条件もあり、学生層を中心とした読者にあわせた、軽いものを中心の品揃えにし

ているそうです。

活字離れということが言われているけれども、このことば自体を使わないようにしたい。読者は必ず居るはずだし、伸びている書店も多いというプラス面に目をむけ、人文会各社も販売にあたって欲しいと、喝を入れられました。

#### 精文館書店

本和田社長、小野常務、白井店長、原田さん、尾崎さん、日販宇津木さん御出席。

愛知県第二の都市、人口三十万人の豊橋の玄関口に一階から四階まで六百坪（うち百六十坪は文具）という売場面積を誇る。またレコード、スポーツ用品、医院などをテナントに入れ、ビル全体をカルチャー・センターと位置付けているそうです。

最近専門書も着実に伸びており、丁度訪問した際には、岩波書店のブックフェアを大々的に行なっていたのが目立ちました。

専門書の仕入れについては、日販名古屋支店を通して行なっているが、早いものは三日、遅いものだと二週間もかかるというバツキが目立つので改善してほしいとのこと。

新刊の仕入れに際して、売れ行き予測が難しいので、作り部数などを指数で表示してほしいということ。

常備については選択常備が望ましいが、基本セットの他は単品選択が出来、単品については半年に一回の入れ替えをしてほしいという御希望ができました。

ブックフェア等の催事の返品はフリーにしてもらいたいということ、新刊委託の返品も常備返品期以外に定期的に調整返品を認めるようにという御要望ができました。

それにしても、社員の方のうち半数は五十三年以降の入社ということで、在庫の豊富さ、的確な棚構成の他に、精文館さんのエネルギー源の秘密がどこにあるのか理解できたような気がします。

最後に、旅行中の総括会議の席上、取次店の方々から貴重な御意見を賜りましたこと、改めて感謝申し上げます。今後の販売活動に生かすようにしたいと存じます。

また静岡に入ったところで、三島市の春秋堂さんの御不幸を知り、会員各社大変驚きました。心よりお悔み申し上げます。（菊池）

## 人文会 ゴルフコンペ記

快晴、微風の冬には珍らしい穏やかなゴルフ日和に恵まれ、二月九日、千葉の名門コース中山カントリー・クラブにて、第十回人文会ゴルフコンペを開きました。

参加者は会員九社十二名、取次店からは、東販 稲葉部長、大阪屋 五味淵課長、鈴木書店 宮川、土屋両部長、明文図書 関社長、日新堂 平山部長をむかえ、総勢十八名にて午前九時、アウトコースよりスタート致しました。

スタートはフェアウェイをキープする者が少なく、前途多難と思われました。午前中は氷った池にバウンドしてグリーンそばに寄ってきたり、はたまた三打でトップして後ろのバンカーに入れ、五打でチップ・インしたり好プレー・珍プレーが続出。

午前のハーフを終わってみると、鈴木のお土屋さん（ハンデ18）と春秋社の神田さん（ハンデ22）が3アンダーでトップを走っておりました。人文会一の名手Nさんが、なんと16オ

ーバーとここ何年も出したことのないスコアで回り、さすがにがっくりしておりました。昼食後はインコースからスタート。Nさんは立直り、41の好スコアで回りましたが、皆、一様にスコアを崩しておりました。

鈴木のお土屋さんは午後、腰を痛めました。3オーバーにまとめ、ネット、パープレーで見事優勝致しました。神田さんは崩れて5オーバー、通算2オーバーでなんとか二位を守りました。

ドラコンは、やはりNさんが二個とも手中にしましたが、ニヤピンは日評の榎本さん、晶文社の万洲さんと私が珍らしく二個もと、ニコニコしておりました。

OB・三バットは罰金二〇〇円を取りましたところ、OBはあまり無かったようですが、一〇、六〇〇円も集まり、冬の高麗グリーンの難かしさを味わったようです。

三時からパーティーを開き、優勝から三位（鈴木のお土屋さん）までは、好例により金銀銅のジャンボ・メダルを首にかけて表彰。

東販の遠藤専務から頂いた東販賞（五・十等）は法政の市川さんと私が幸運にも頂くことが出来ました。宮川さんから頂いたゴルフ

最中は、ニヤピン賞、中間賞（日評の後藤さん）大波賞（法政の阿部さん）15等賞（紀伊国屋の野口さん）B・B賞（大阪屋の五味淵さん）にあてて授与。和気霽々のうちにプレーの思い出などを話し四時に散会致しました。

会員社の参加者は次の通りです。

野口（紀伊国屋出版部）神田（春秋社）中村・万洲（晶文社）浜地（誠信書房）佐々木（東大出版）榎本・後藤（日本評論社）阿部・市川（法政大出版局）辻村（有斐閣）相田（みずす書房）

第10回幹事相田（みずす書房）記

### 晶文社再度の受賞!!

第13回大宅壮一ノン・フィクション賞

宇佐美 承著 さよなら日本 1300円 晶文社

第12回は該当作品なしのため、第11回につづいての受賞です。おそろえ下さい。

第11回受賞 につぼん 背吉漂流記 1300円 晶文社



## 社会と意味

メタ社会学的  
アプローチ

山口節郎 社会学にとって社会とは何か。現代社会学の人間中心主義的な方法の脆さを批判する。

二二〇〇円 千300

## グノーシスと古代宇宙論

柴田 有 古代宇宙論に着目、グノーシスの本質規定を明らかにし、キリスト教史の内実を逆照射する。三五〇〇円 千300

## 論語を読む

常石 茂 日本人の思想と行動の源泉となった、孔子をめぐる生きた人間たちの記録。人間とはなにか。二〇〇〇円 千250

## 老子を読む

稲田 孝 退いて先となり、弱を保つて強に勝つ、無為自然による其の主体性確立を説く老子の虚像と実像一九〇〇円 千250

東京文京 勁草書房 振替東京 5-175253  
後楽2-23

## 古代への夢

トロヤに恋かた男、  
シュリーマン

A・ブラックマン著 シュリーマンは黄金にひかれてトロヤを発見したと批判されるが、著者はその動機を、ホメロスに対する情熱からだと考え、シュリーマンの足跡を証明にたどる。

二四〇〇円

## オゾン戦争

触まれる宇宙船地球号

L・ドット/H・シッフ著 生命と環境にとってかけがえのないオゾン層―その破壊という事態を前にしてアメリカの政府・産業・科学者たちの間で戦わされた文字通り地球大の環境論争を描く。見角銀二／高田加奈子訳 (I)(II)各一六〇〇円

## トリック専科

松田道弘著 トリックやゲームの案内として、多くのファンを持つ著者が、これらを縦糸に、ミステリー映画、マジック等を横糸にくりひろげるグラフィティエッセイ。 予一八〇〇円

社会思想社  
東京文京本郷・八三・八〇二

## ホロコーストの文学

ローレンス・ランガー 増谷・石田・井上・小川訳 ナチス強制収容所の大量殺。この言語を絶する残虐の体験を、文学に表現することはどのように可能か。力作評論。 3000円

## ブーレーズ音楽論

《徒弟の覚書》 ビエール・ブーレーズ 船山隆・笠羽映子訳 20世紀音楽の精緻な分析を通して新しい音楽言語の構築をめざす、刺激的な音楽批評集。作品表・年譜付。3900円

## ウィリアム・ブレイクの芸術

アンソニー・プラント 岡崎康一訳 18世紀イギリスの偉大な詩人にして画家、ブレイク。今日の「ブレイク・ルネッサンス」の昂りを基礎づけた先駆的研究。図版多数。2300円

晶文社 東京都千代田区外神田2-1-12  
電話 (255) 4501

小瀬甫庵撰 神郡周校注  
信長記 (上下)

各 一六〇〇円

本書は大平記以来の戦記文学の伝統に立ち、しかも我が国の中世の世界を破壊し去った稀有の革命児である信長の事蹟を記する。附 清須合戦記、道家庄君記、南蛮寺興廢記他併録  
源頭兼撰 小林保治校注

## 古事談 (上・下)

各 二四〇〇円

第一―王道后宮、第二―臣節、第三―僧行、第四―勇士、第五―神社仏寺、第六―亭宅諸道の六巻より成る。好色説話、勇者説話、墮地獄説話など、当時の生活実情を伝える。

## 現代思潮社

東京都文京区小日向1-24 電話(943)4406

## ピグミーチンパンジー

未知の類人猿

黒田末寿 性的行動に満ちたピグミーチンパンジーの生態と社会構造を世界で初めて公開する。ちくまぶっくす・950円

## 産業組織論

植草益 制度分析と国際比較を総合しつつ、産業組織分析の視角から現代日本経済の機構とその問題点を説明。3800円

## 日本論

日本キリシタンとオランダ

ファン・ハーレン 井田清子訳・解説  
18世紀オランダの知識人による卓抜な日本政治・社会論。本邦初訳。1900円

## 密教世界の構造

空海『秘藏宝鑰』

宮坂宥勝 空海の雄大な密教体系に、現代思想との接点において肉薄する、密教研究の先駆的名著。筑摩叢書・1300円

東京神田 筑摩書房 小川町2

## 春秋選書

## 宗教と文学の地平

嶋岡 晨

近・現代の詩人、小説家たちが、いかに宗教に出会い、そこに何を希求したか。宗教と文学の固有の領域の地平に、新たな（救い）の文学を模索する力作。 予価一五〇〇円

## 自我の行方

対談 岸田 秀 八木誠一

自我は、生命の豊かな可能性を抑圧して形成される、狭く矛盾に満ちた存在である。しかも人間はそれなしには生きられない。自我をどうするか。 予価一二〇〇円

春秋社 東京都千代田区外神田2-18-6 (03) 255-9611 千101

## 誠信書房

東京都文京区大塚3-20-6

## 催眠の科学と神話

H・B・ギブスン／林 茂男訳 催眠性無痛は果して本物か。動物も催眠にかかるのか。催眠の特質とその治療への応用に關して新鮮な幅広い視野から分析し、ユニークな催眠論を展開する。 二八〇〇円

## 言語なき思考

聲の心理学的内含 H・G・フアース／染山教潤・氏家洋子訳 聲心理研究の世界的権威である著者が長年にわたる聲者の研究を通じて言語・思考の問題に取り組んだユニークな書。 二二〇〇円

## ジャン・コクトー全集全8巻

第4回配本

第2巻 詩Ⅱ

定価六五〇〇円

ジュリアン・シモンズ

八木敏雄訳

告げ口心臓 E・A・ボオ

〈キー・ライブラリー〉新刊 定価二二〇〇円

マレック&ゴードン・スミス

シヨパン

木村博江訳 定価二六〇〇円  
〈ミュージック・ライブラリー〉新刊

ポーランドの生んだピアノの詩人シヨパン！従来の誤解、偏見を排し、戦後発見された新資料を駆使してその実像に迫る。数あるシヨパンの伝記の中でも白眉の一冊。

東京創元社 162東京都新宿区新小川町

「歴史のなかの女性」の実像に迫り、女性史研究の新たな地平を切り拓く、本格的な「女性史」、全5巻成る！

# 日本女性史 全5巻

編集／女性史総合研究会 四六判／各一八〇〇円

第2巻 中世 第一回配本 ◇第1巻 原始・古代

平安末から戦国動乱期。男子中心の社会であり、封建貴制の成立期である。しかし、女性の姿はいまだ生き生きとしていた。 内容見本呈

◇第3巻 近世 第4巻 近代 ◇第5巻 現代

東京大学出版会

113文京区本郷 '82年目録呈 ☎03-811-8814

山口 定著

四六判／定価一八〇〇円

# 現代ヨーロッパ政治史上

好評を得た旧版を全面的に改訂し、新たな研究動向を加え上下二巻として刊行する。上巻では帝国主義諸国の台頭、ロシア革命、第一次世界大戦の勃発、ファシズムの勝利までをわかりやすく解説する。

レイモン・アロン著

四六判／定価一八〇〇円

# ヴェーバーへの道

川上源太郎訳 二十世紀初頭のドイツ社会学の流れを体系的に社会学と歴史的社会学の二つに大別し、その総合した姿をヴェーバーの社会学に見出し、その本質に迫る。ヴェーバー社会学の良き入門書である。

東京・文京小石川1-3

福村出版

電話(03) 813-3981

日本評論社

近代日本の

# 統合と抵抗

鹿野政直・由井正臣 編

【全4巻】各巻定価2400円

日本の近代天皇制は、赤裸々な権力支配と教化国家として民衆を支配しつづけた点に一つの特徴があった。本シリーズは国家の統合と民衆の抵抗とのせめぎあい視点をあて、近代日本の歴史を明らかにする。

●1・2巻好評発売中

- ①維新・世直し状況～日清戦争開始まで
- ②日清戦争～大逆事件・韓国併合まで
- ③辛亥革命～満州事変開始まで
- ④満州事変～敗戦まで

〒160 東京都新宿区須賀町14

# 路地裏の大英帝国

☆イギリス都市生活史

編 川角山栄・川北稔 産業革命や海外貿易の発展にともない、英国の都市生活は大きく変貌した。暗黒と光明が交錯する人々の暮らしと生きがい。

●定価1,700円

平凡社

〒102 東京都千代田区三番町・振替・東京8-29639

# 法政大学出版局

野沢 協全訳・解説

●全七巻内容見本呈

ビエール・ペール著作集／第三巻

## 歴史批評辞典 I

3月下旬発売

A5判・定価二万二〇〇〇円

啓蒙思想の巨大な武器庫として、十八世紀ヨーロッパの最大かつ最長のベストセラーをなしたペール畢生の代表作。本巻はA―Dまで

\*ビエール・ペール著作集／既刊

第一巻 彗星雑考

第二巻 寛容論集

第一巻

第二巻

定価六八〇〇円  
定価八五〇〇円

東京都港区南麻布2-8／振替東京6-95814

# 民衆の知恵を訪ねて

宮本常一著作集Ⅱ第26巻 (第Ⅱ期刊行開始)

民衆の生活技術や英知の歴史を記した三篇収録。『民衆の知恵を訪ねて』『武蔵野の開発と景観の変遷』『民衆生活様式の変遷』解説 田村善次郎。〈第1回配本〉B6判上製貼函入・定価二五〇〇円

## 宮本常一著作集

●第Ⅰ期 各巻五〇〇円・一〇〇〇円  
全25巻Ⅱ完結 全巻合計一四〇〇〇円

東京豊島駒込1の3の15  
振替 東京七七八三八五  
電話 943・6841

未来社

仕事と日々・夢想と夜々 哲学的対話

ジャンケレヴィッチ 経緯の内的世界―郷愁・愛・沈黙・ユーモア・時間・死についての省察。仲沢紀雄訳 三〇〇〇円

ワルシャワ・ゲット―捕囚者のノート

リンゲルブルム 戦後ゲットーの廃墟から発掘された、ナチ侵攻下の日々を生きた歴史家の記録。大島・入谷訳 三〇〇〇円

資本の時代<sup>2</sup>

ホブズボーム ブルジョアによるブルジョアのための時代への新しい歴史像の提起。全三巻完結。松尾・山崎訳 三〇〇〇円

精神の独立 ロマン・ロラン全集41A

「ヨーロッパ」誌編集長・ジャン・リゲノとの、一九一九―四四年の四半世紀間に及ぶ往復書簡集。山口三夫訳 三〇〇〇円

東京文京本郷3丁目17-15

みすず書房

# 有斐閣選書

コミュニティの社会設計

奥田道大・大森彌ほか著 コミュニティを地域住民がともに重荷を担いあう諸活動として捉え、現代都市社会の中の「まちづくり」の思想を追求。一六〇〇〇円

社会システムの考え方

新藤人・中野秀一郎著 分析よりは総合を重むる社会システムという社会観が、硬直した社会の制約と人間社会の知的設計に役立つ事を説く。一六〇〇〇円

マスコミが事件をつくる

中野収・早川善治郎編 マスコミの最大の機能は単なる出来事を巨大な社会的事件に転化させる力にある。情報イベントの渦巻く時代を描いた。一四〇〇〇円

有斐閣／東京神田神保町2-17

非売品

昭和57年3月20日発行 年4回発行 第33号  
発行所 人文会 みすず書房内  
〒113 東京都文京区本郷5-32-21  
(113-91 東京都文京区 本郷局私書函89号)

| 回覧者印 | 回覧者印 | 回覧者印 | 回覧者印 | 回覧者印 |
|------|------|------|------|------|
|      |      |      |      |      |